



【424 愛知共同行動通信 NO148 より転載】

## 9月7日秋の運動・署名スタート集会



9月7日労働会館ホールを会場に『2021いのち守る秋の運動・署名スタート集会』が開催され、社会保障・社会福祉改善へ向けた各団体の運動と署名の交流を行いました。集会には、40名が参加しました、

### 《各団体からの運動報告》

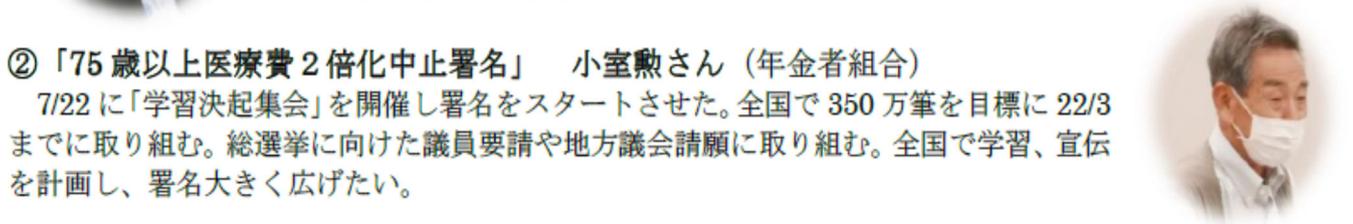
#### ①新「いのち署名」 西尾美沙子さん（愛労連議長）

「全国一斉蜂起0905」では、県内8カ所145名が参加。全国36都道府県119カ所で一斉に声を挙げた！20年度に取り組んだ「いのち署名」は全国で65万筆を集約し、100名を超える国会議員の紹介議員へ広がりを作ったが、審議未了となった。この運動をさらに大きく広げるため、新「いのち署名」に取り組みます。各組織で創意工夫し、大きく取組を進めて行きましょう！



#### ②「75歳以上医療費2倍化中止署名」 小室勲さん（年金者組合）

7/22に「学習決起集会」を開催し署名をスタートさせた。全国で350万筆を目標に22/3までに取り組む。総選挙に向けた議員要請や地方議会請願に取り組む。全国で学習、宣伝を計画し、署名大きく広げたい。



#### ③「名古屋市国保署名」 日下紀生さん

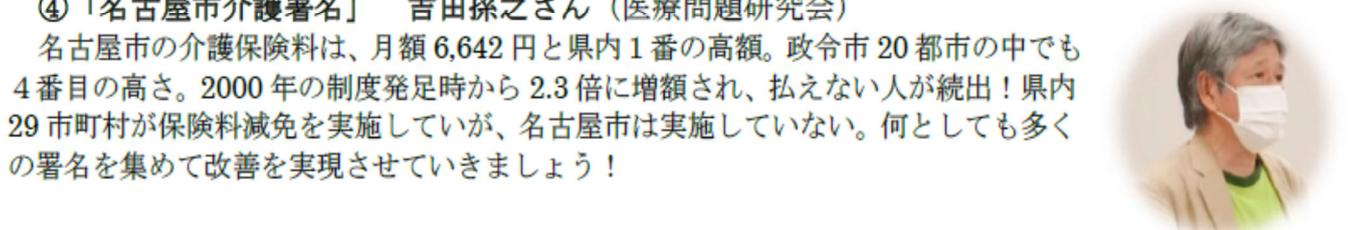
（名古屋市国保と介護の会・保険医協会事務局次長）

名古屋市の国保料は、5大政令市で2番目に高く、一般会計からの独自繰入もかつては200億円を超えていたが、21年度はわずか66億円と縮小。私たちの運動で様々な制度運用改善は行ってきたが、根本的な制度改善を求めて署名を大きく積み上げる運動が必要！



#### ④「名古屋市介護署名」 吉田孫之さん（医療問題研究会）

名古屋市の介護保険料は、月額6,642円と県内1番の高額。政令市20都市の中でも4番目の高さ。2000年の制度発足時から2.3倍に増額され、払えない人が続出！県内29市町村が保険料減免を実施しているが、名古屋市は実施していない。何としても多くの署名を集めて改善を実現させていきましょう！





⑤「全国介護署名」 武田修三さん（愛知民医連事務局長）

全国的に介護保険料は高すぎて払えない実態が増加している。しかし、制度は年々改悪、負担増が狙われており、保険料の引き下げと国庫負担の大幅増額で、介護をする人も受ける人もともに大切にされる制度を実現していきましょう！

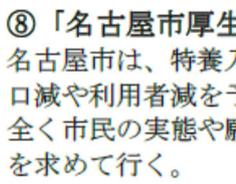
⑥「保育署名」 田境 敦さん（愛保協）

「保育・学童保育制度の抜本改善を求める署名」一名古屋市・愛知県・国の3本柱で署名に取り組んでいきます。コロナ禍の中で保育は深刻な実態に追い込まれている。そんな中でも、公立保育所の廃止や民営化なども強行され、マンパワーの配置基準の見直し改善も進んでいません！署名を集め、全国民の世論で制度の大幅改善を実現させたい。



⑦「敬老パスの運動」 渡辺義巳さん（敬老パスと地域交通拡充で元気な名古屋をつくる会）

敬老パスは、私たちの運動で「私鉄・民間バス」への利用拡大を前進させたが、一方で利用回数制限（年730回）を22/2から実施という改悪を持ち込んだ。4月の市長選挙では、河村市長が一定の改善を公約した。会では、利用回数制限の実施延期と市長公約の実施を求めて運動を強化して行きます。利用回数撤回を求める署名では、4万部のポスト・イン行動で、約4千筆の署名が返信され、大きな運動の力となった。



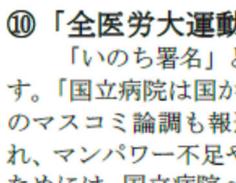
⑧「名古屋市厚生院を守る運動」 樽松佐一さん（厚生院を守る会副代表）

名古屋市は、特養入所待機者が3,619人も待たされているのに、今ではなく、将来の人口減や利用者減を予測して市立の特養「厚生院」の廃止計画を発表した。全く市民の実態や願いから逆行した市政。署名とアンケートに取り組んで、計画の撤回を求めて行く。



⑨「緑市民病院を守る運動」 山崎富紀雄さん（緑市民病院のよりよい医療を願う会世話人）

名古屋市立緑市民病院は、現在、「指定管理者」運営となっていますが、その期限が切れることに乗じて、名古屋市立大学附属病院化する計画を進めています。利用者や市民に意見を聞くことなく、一方的に進めていること。緑区は、医療資源が少ない中、病床運営は縮小が前提の計画です。市民病院は「市民による・市民のための」病院として拡充強化が求められます。民主的な手続きと、市民・利用者の意見を聞きながらより良い市民病院運営となるよう運動していきます。



⑩「全医労大運動」 長尾実（全医労愛知地区協議会書記長）

「いのち署名」とセットで「国立病院の機能強化を求める署名」に取り組んでいます。「国立病院は国から補助金貰っているのだからコロナ専門に受け入れをすべき」とのマスコミ論調も報道されていますが、すでにコロナ対応はギリギリのところ受入れ、マンパワー不足や施設の老朽化などで厳しい実態があります。コロナ対応の拡大のためには、国立病院への人員増や国からの直接補助金で充実強化が必要。署名や議会請願に取り組み、地域医療を守る為にも国立病院の拡充強化を求める運動を強化します！



《行動提起》小松民子さん（愛知社保協事務局長）

1) 「憲法を活かし、社会保障の拡充を実現する」政治への転換を求める世論を大きく広げよう！

①菅首相への「手紙」を広げよう

②Twitter デモに参加し、大きな世論に！

③総選挙で各政党や立候補者へ署名の内容を公約にと要請しよう

2) 「いのちを守る緊急行動」に結集し、地域医療を守り社会保障・福祉を拡充させる共同行動を推進しよう！



3) 新「いのち署名」に結集し、様々な署名に全力で取り組もう！

①自治体請願で「意見書」採択を

②名古屋市への要求運動を強化しよう

4) 憲法改悪反対、社会保障大改悪阻止など 共同の課題・運動に結集しよう！

5) 第43回自治体キャラバンを成功させよう！

# いのちのとりで裁判名古屋高裁第3回期日報告

## 白井康彦氏投稿/元中日新聞記者・フリージャーナリスト

おはようございます。昨日は、名古屋高裁での生活保護基準に関する「いのちのとりで裁判」の第3回期日でした。原告Nさんが陳述。生活の厳しさをきっちり訴えました。責任の重さを感じていたNさんは一睡もできなかったそうです。被告側は名古屋高裁と大阪高裁では、行政の裁量の幅が広範だという主張に一番重点を置いている感じです。この論点では、昨日も富山の伊藤建弁護士が活躍して裁判官も慎重に検討せざるを得ない感じです。第4回期日が来年1月24日、第5回期日が同4月25日という予定も決まりました。第6回期日や証人尋問があるかどうか、といった状況です。

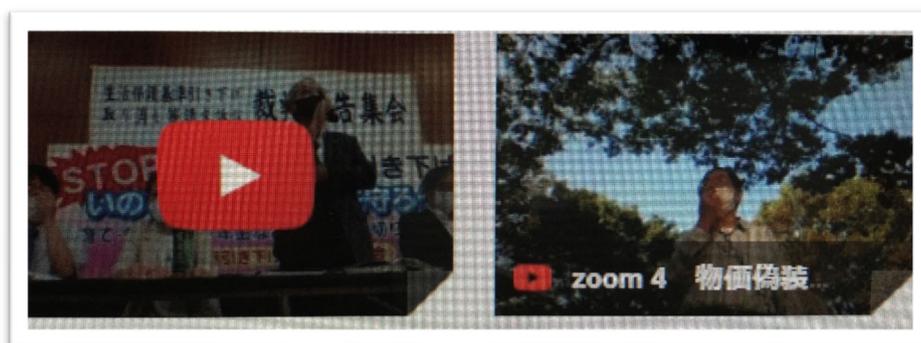
物価偽装の論点では、原告側にとって大きな進展がありました。経済学者の2人が「厚労省の計算では駄目」という趣旨の意見書を出してくれたのです。専修大学経済学部古賀麻衣子教授と名古屋学院大学経済学部阿部太郎教授です。白井はずっと、厚労省の計算について「特殊な計算方式を使ってテレビやパソコンなどの影響が異様に大きくなるようにして物価下落率を大幅に膨らませた」と強調しています。2人の教授の意見書も大筋はこの路線です。厚労省の物価指数計算でテレビなどの影響が異様に大きく出ていることは、開示された資料から「歴然たる事実」となっています。物価の論点については「原告側が圧倒的有利になった」というのが白井の形勢判断です。

終了後の集会での内河恵一弁護士団長・森弘典弁護士団事務局長の報告は、動画があります。YouTube白井チャンネルの物価偽装対談シリーズ特別編に組み入れました。

[\(169\) zoom 0 物価偽装対談シリーズ特別編・名古屋高裁控訴審第3回期日の報告集会 - YouTube](#)

昨日は午前8時頃から裁判所前で、支援組織の樽松佐一さんと白井がマイクを握って厚労省の物価偽装の酷さをアピールしました。申し訳ありませんが、時間の関係で、白井チャンネルでは白井の訴えを中心に編集させていただきました。それも、白井チャンネルの物価偽装対談シリーズ特別編に組み入れました。

[\(169\) zoom 4 物価偽装対談シリーズ特別編「裁判所前でのアピール」 - YouTube](#)



名古屋学院大学の阿部太郎教授が物価の論点の意見書を書いただけでなく、それをもとにしたレポートも執筆。noteというSNSを通じて情報拡散に動き始めました。

経済学者自らが「物価偽装は酷い」と感じて行動されたわけで、全国各地の原告・支援者・弁護士らを奮い立たせる朗報だと思います。 [生活保護減額裁判の焦点ーデフレ調整についてー | 阿部太郎](#)

[| note](#) 9/18

# 9月19日生活保護シンポを労働会館東館ホールにて開催

生活保護の現状を理解するシンポジウムが、熱田区沢下町の労働会館であり、受給者の支援などに関わる五十人が参加した。全国各地で争われている生活保護費引き下げ違憲訴訟の経過説明や、新型コロナウイルス禍での生活困窮者の状況を語り合った。

訴訟は二十九都道府県で起こされ、引き下げを違法として処分を取り消した二月の大阪地裁判決を除き、札幌、名古屋、福岡、京都の四地裁では原告側が敗訴している。

十九日のシンポジウムには大阪弁護士団の清水亮宏弁護士がオンラインで参加。引き下げの根拠とされた物

価の下落率などに欠陥があるとした大阪地裁判決の要点を説明した。

このほか、保護費引き下げの反対派が違法性を訴える寸劇を披露。生活保護受給の相談・申請に携わる自治体職員がコロナ禍以降の状況を紹介し、「一日に三十件程度の相談が窓口寄せられる。リーマン・ショックの時ほどではないが、困窮者を直撃している」と語った。

生活保護費の引き下げに反対し、寸劇を披露する参加者。熱田区の労働会館で

展示は十月五日まで。

シンポでは、「大阪地裁判決を学ぶ」講師は大阪弁護士団清水亮宏弁護士。名古屋市での生活保護申請の状況について報告を受け、寸劇も披露された。会場参加者にWeb参加者を含め50人ほどの参加があった。

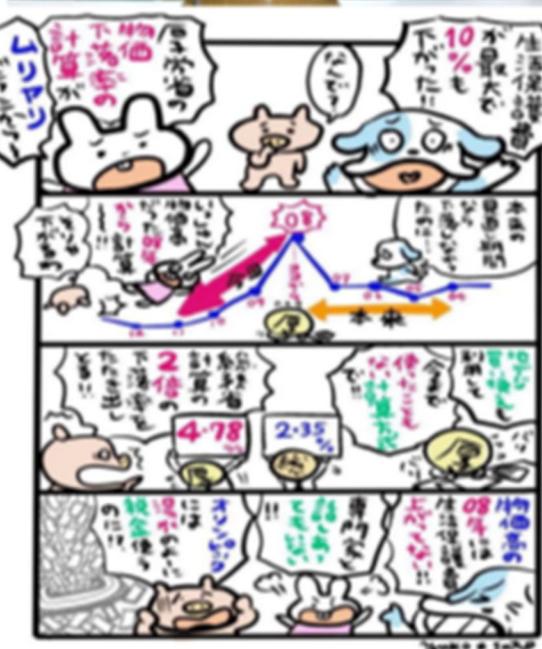
←中日新聞より  
↓支援連絡会ニュースより転載



## 厚労省の物価偽装は許さない!

裁判勝代(愛労連西尾美沙子議長)が断言  
8月19日労働会館で開催された生活保護シンポにはZOOMも含めて50名が参加。最初に大阪弁護士団の清水亮宏弁護士が大阪地裁判決勝利の意義を報告。名古屋市職労から現場報告が行われました。

これを受けて愛知連絡会では寸劇「物価偽装を徹底追及」(作自井康彦)を上演。さらに佐藤さんに書いていただいた4コマ漫画も活用して市民に物価偽装・不正を知らせていくことなどを提起しました。



生活保護基準引き下げ反対! 生活保護費削減反対!  
生活保護費引き下げ反対! 生活保護費削減反対!

最後に参加者全員で「貧困問題に取り組まない政治家はいらない」のプラスターを掲げて、生活保護基準引き下げ撤回までたたかうことをアピールしました。

## 裁判官は計算間違いを認めよ!

高裁前で物価偽装のしくみを説明

厚労省の生活保護物価指数の過ちを自井さんが繰り返し説明。国は計算方法・計算結果の不当は争わず全て厚労大臣の裁量で逃げようとしています。白井さんはこれを Youtube「白井チャンネル」で拡散しています。(下記)



## 市民にアピール 9月10日 栄三越前

名古屋地裁は生活保護パッシングを使った自民党の公約を「国民感情」だと書きました。次回裁判にむけ私たちももっと市民にアピールしましょう。



名古屋高裁控訴審第四日目  
2022年1月24日(月)14:30~

阿部太郎 note「生活保護裁判の焦点 デフレ調整」 [https://note.com/ta\\_abe/n/nf33e8d6c4105](https://note.com/ta_abe/n/nf33e8d6c4105)  
白井康彦チャンネル <https://www.youtube.com/watch?v=AUEKNCso5O0&t=672a>